

「第3次豊中アジェンダ 21 改定版」 2023 年度評価

<評価の対象・項目>

・「第3次豊中アジェンダ 21 改定版」でも引き続き、毎年実績を検証・評価し、行動提案は総会にて公表。

評価項目	関係	頻度	公表の方法
環境目標	環境基本計画と共有	毎年	豊中市環境報告書
行動提案		毎年	とよなか市民環境会議 総会

- ・「第2次豊中アジェンダ 21」は個別の行動提案ごとに評価を実施していたが、「第3次豊中アジェンダ 21」からは望ましい環境都市像のテーマごとの総合評価とし、「第3次豊中アジェンダ 21 改定版」でも踏襲。
- ・評価項目や個別の評価指標は、状況に応じて追加・見直しをしながら運用していく。

項目	評価指標
①統計や行政の行動の指標	行動提案と一緒に記載の評価指標
②市民・事業者の行動の指標	
③構成団体チェックシート	行動提案の平均実施率
④市民の取組みの質的な評価	文章を作成して表現
総合評価	

※一部のテーマでは適当な取組みがないため、市民・事業者の行動の指標を設定していない

<評価の記載方法（総合評価のまとめ）>

関連する SDGs の主なテーマ	望ましい環境都市像		総合評価 の結果	(参考) 昨年度 の結果
 平和と公正を すべての人に  パートナーシップで 目標を達成しよう	市民参加・ 協働	地域の環境活動に市民・事業者が参加し、行政とともに協働で取り組むまち	C (0点)	B
 つくる責任 つかう責任	人にやさしい	多様な世代が地域の中でつながり、安全・安心に住み続けやすいまち	C (0点)	C

テーマごとの総合評価の結果を記載

昨年度の結果と比較できます

2023 年度 総合評価のまとめ	2.1 点 ※全テーマの平均	2.5 点
B 評価が 5 つ、C 評価が 7 つで、前年度よりも B 評価が 1 つ減りましたが、全テーマの平均はプラスで、着実に進捗していると考えられます。(以下略)		

まとめの内容を文章にてコメント

テーマごとの総合評価の結果を点数化し、平均した値を-10点~10点で掲載
※プラスの値：進捗とみなす

<評価の記載方法（各テーマごとの総合評価）>

数値がプラスになった方が良い指標は増加、マイナスになった方が良い指標は減少としています

直近の数値（2023）について、前年度（2022）からの増減を表しています

項目	指標名	めざす方向	2021	2022	2023	増減等
①統計や行政の行動の指標	とよなか市民環境会議の構成団体数	増加	134 団体	133 団体	129 団体	△4 団体
	豊中 SDGs パートナーの登録団体数	増加	83 団体	108 団体	107 団体	△1 団体
②市民・事業者の	市民、事業者による環境活動の取組	増加	39 件	58 件	—	19 件
④市民参加の質的な評価	協働の取組みに関する意見交換会では、「広報・情報発信」をテーマとし、環境活動に取り組む団体の情報発信等について議論を行いました。					○
【市民参加・協働】の総合評価						
<p><総合評価の補足説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ①豊中 SDGs パートナーの登録団体数は、「第3次豊中アジェンダ 21 改定版」から新たに導入した指標です。（以下略） 						C

評価指標のうち、今回から追加・訂正した内容に下線を引いています

市民の状況を文章で説明し、3段階で評価をします

2023 年度の数値がない場合は網掛けをし、「—」と記載しています。この場合、2022 年度の数値について 2021 年度からの増減を表しています

指標の数値に現れない説明などを記載し、総合評価の際に考慮しています

①～④の評価を総合し、5段階で評価をします

<数値等の引用や作成>

- ①豊中市（行政）が主に把握している数値。
- ②NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21、および豊中市が把握している市民の取組みの数値。
- ③とよなか市民環境会議の構成団体（129 団体）を対象に、2024 年 3～4 月に実施し、64 団体が回答。
- ④とよなか市民環境会議で作成。

<評価の手順>

- ①②でテーマごとに設定している指標の数値を各年度に入れる。
- ③は構成団体から回答された実施率を計算し、各年度に入れる。
- 直近の数値（2023 年度）について、前年度（2022 年度）と比較し、前年度からの増減を記載する。増減の割合に応じて評価する。
 - ※直近の数値が把握できていない場合は、前年度（2022 年度）と前々年度（2021 年度）の数値を比較。
- ④は①～③以外の内容について、市民の活動状況を文章で説明して評価する。
 - ※文章の内容を、良い◎・普通○・課題がある△の 3 段階に換算して表現する。
- ①～④の評価を総合し、5段階で評価する。
 - ※高い評価 A・評価できる B・普通 C・少し課題がある D・とても低い評価 E
 - ※評価の際には、<総合評価の補足説明>の内容を考慮する。

- テーマごとの A～E の総合評価を点数に換算する（A：10 点、B：5 点、C：0 点、D：-5 点、E：-10 点）。
- 換算した点数の平均を計算し、10 点満点で評価する。（※小数第 2 位を四捨五入する）
- 10 点満点の数値がプラスであれば、望ましい環境都市像の実現に向けて進捗をした、また、数値がマイナスであれば、望ましい環境都市像の実現に向けて後退したとみなす。

<2023年度 総合評価のまとめ>

関連する SDGs の主なテーマ		望ましい環境都市像		総合評価 の結果	(参考) 昨年度 の結果
 16 平和と公正を すべての人に  17 パートナーシップで 目標を達成しよう	平和と公正を すべての人に	市民参加・ 協働	地域の環境活動に市民・事業者が参加 し、行政とともに協働で取り組むまち	C (0点)	B
	パートナーシップで 目標を達成しよう				
 12 つくる責任 つかう責任	つくる責任 つかう責任	人にやさしい	多様な世代が地域の中でつながり、安全・安心に住み続けやすいまち	C (0点)	C
 11 住み続けられる まちづくりを	住み続けられる まちづくりを	まちづくり	地域活動が活発で、地域の特徴に応じたまちづくりができるまち	C (0点)	C
 4 質の高い教育を みんなに	質の高い教育を みんなに	環境学習・ 環境教育	みんなが環境についてともに学び、行動に取り組むまち	C (0点)	C
 13 気候変動に 具体的な対策を	気候変動に 具体的な対策を	地球環境	地球温暖化を今よりも進めないため、自分にできることから取り組むまち	B (5点)	C
 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	エネルギーをみんなに そしてクリーンに	エネルギー	くらしの中で省エネルギーを意識し、みんなで自然エネルギーの導入に取り組めるまち	B (5点)	B
 11 住み続けられる まちづくりを	住み続けられる まちづくりを	交通	歩きやすく、自転車で走りやすく、公共交通の便利なまち	B (5点)	B
 1 貧困を なくそう	貧困を なくそう	省資源・ 循環型社会	ごみになるものを減らし、資源として循環することができるまち	B (5点)	C
 6 安全な水とトイレ を世界中に	安全な水とトイレ を世界中に				
 12 つくる責任 つかう責任	つくる責任 つかう責任				
 2 飢餓を ゼロに	飢餓を ゼロに	食・農	地産地消で広がる生き生き農業と、「とよっぴー」を紡いで食育が実感できるまち	C (0点)	B
 15 陸の豊かさも 守ろう	陸の豊かさも 守ろう	自然との共生	多様な生き物がすみ、みどり豊かで、水辺に親しむことができるまち	B (5点)	B
 11 住み続けられる まちづくりを	住み続けられる まちづくりを	歴史・文化	身近なところで、育んできた歴史・文化・景観を感じられるまち	C (0点)	B

	<p>すべての人に健康と福祉を</p> <p>安全な水とトイレを世界中に</p> <p>海の豊かさを守ろう</p>	音・水・大気	騒音や有害な化学物質のない、きれいな水や空気があるまち	C (0点)	C
2023年度 総合評価のまとめ				2.1点 ※全テーマの平均	2.5点
<p>B評価が5つ、C評価が7つで、前年度よりもB評価が1つ減りましたが、全テーマの平均はプラスで、着実に進捗していると考えられます。2023年に「第3次豊中アジェンダ21改定版」を策定し、今回は改定版となって初めての年度評価です。改定版では、これまでと行動提案や評価指標の一部を変更しているため、テーマごとのA～Eの総合評価にも多少影響している可能性があります。特に、行動提案の平均実施率では、2022年度と違う行動提案の実施率を比較する形になっている部分も多数あることから、引き続き経過を注視していくことが求められます。</p>					

<2023 年度 各テーマごとの総合評価>

【市民参加・協働】地域の環境活動に市民・事業者が参加し、行政とともに協働で取り組むまち

項目	指標名	めざす方向	2021	2022	2023	増減等	
①統計や行政の行動の指標	とよなか市民環境会議の構成団体数	増加	134 団体	133 団体	129 団体	△4 団体	
	豊中 SDGs パートナーの登録団体数	増加	83 団体	108 団体	107 団体	△1 団体	
②市民・事業者の行動の指標	市民、事業者の環境活動の取り組み事例数	増加	39 件	58 件	—	19 件	
	とよなか市民環境展の来場者数、出展団体数	増加	1,682 人 32 団体	2,232 人 35 団体	2,391 人 37 団体	159 人 2 団体	
	環境交流センター利用者数、会議室等利用回数	増加	2023 から取得の値 434 回 480 回		17,520 人 444 回	= △36 回	
	とよなか市民環境展への協賛・寄付	増加	246,311 円	235,374 円	238,484 円	3,110 円	
③構成団体チェックシート	「市民参加・協働」の行動提案の平均実施率	増加	47.12%	60.22%	50.89%	△9.33%	
④市民参加の質的な評価	協働の取り組みに関する意見交換会では、「環境情報の提供」をテーマとし、環境活動に取り組む団体の情報発信等について議論を行いました。					○	
【市民参加・協働】の総合評価							
<p><総合評価の補足説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ①豊中 SDGs パートナーの登録団体数は、「第 3 次豊中アジェンダ 21 改定版」から新たに導入した指標です。 ②市民、事業者の環境活動の取り組み事例数の 2022 年度の数値が判明するのは 2024 年 7 月以降となるため、2022 年度の数値を直近の値として評価しています。市民、事業者の環境活動の取り組み事例数は 2018 年度の 192 件と比較すると減少していますが、直近の件数は増加傾向となっています。 ②環境交流センターの指標が変更となり、2023 年度からは施設外のイベント参加者数等も含んだ「利用者数」となりました。一部の数値はさかのぼって取得が難しいため、2023 年度からの記載となります。 ③構成団体の行動提案の実施状況は、実施率が 10%程度減少しましたが、2021 年度の実施率と比べると微増になります。行動提案「一人ひとりや一つひとつの団体の活動も、ネットワークで広げよう」は 80%以上の実施率となっており、ネットワーク組織であるとよなか市民環境会議の特徴を表していると言えます。 ・とよなか市民環境会議の構成団体数はここ 5 年で約 10 団体減少しており、今後は構成団体のあり方や、環境活動におけるネットワークのあり方などについて、引き続き検討を進めていくことが求められます。 							C

【人にやさしい】多様な世代が地域の中でつながり、安全・安心に住み続けやすいまち

項目	指標名	めざす方向	2021	2022	2023	増減等
①統計や行政の行動の指標	「まちカメくん」への通報回数	増加	609回	672回	693回	21回
②市民・事業者の行動の指標	環境マネジメントシステムの導入事業所数	増加	31件	27件	27件	0件
③構成団体チェックシート	「人にやさしい」の行動提案の平均実施率	増加	60.70%	63.92%	79.30%	15.38%
④市民参加の質的な評価	市内の小学校区単位で地域自治組織の活動が進められており、中には防犯まち歩きを行うなど、安心安全なまちをつくるための取組みを行っている地域があります。					○
【人にやさしい】の総合評価						
<p><総合評価の補足説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ①「まちカメくん」への通報回数は、「第3次豊中アジェンダ21改定版」から新たに導入した指標です。豊中市が管理する道路の損傷などの不具合やごみの不法投棄について、スマートフォン向けアプリで通報することができるものです。毎年少しずつ回数が増加しています。 ③構成団体の行動提案の実施状況は、実施率が15%以上上昇しました。「第3次豊中アジェンダ21改定版」により、行動提案に変更があった影響と考えられます。行動提案「物品の購入や部材などを調達する際は、環境に配慮した製品を積極的に選ぼう」が85%を超えるなど、すべての行動提案が70%以上となっています。 「第3次豊中アジェンダ21改定版」策定委員会では、「人にやさしい」の取り組みがあまり具体化されなかったため、今後は構成団体の取組みを確認して、行動提案の推進活動に活かしていくことが求められます。 						
C						

【まちづくり】地域活動が活発で、地域の特徴に応じたまちづくりができるまち

項目	指標名	めざす方向	2021	2022	2023	増減等	
①統計や行政の行動の指標	地域清掃活動登録企業数	増加	12 団体	12 団体	12 団体	0 団体	
	生垣緑化・沿道緑化助成件数	増加	2 件	6 件	4 件	△2 件	
②市民・事業者の行動の指標	みどりのカーテン参加団体数	増加	64 団体	62 団体	53 団体	△9 件	
	花いっぱい運動実施場所数	増加	37 か所	37 か所	40 か所	3 か所	
③構成団体チェックシート	「まちづくり」の行動提案の平均実施率	増加	57.19%	66.67%	52.50%	△14.17%	
④市民参加の質的な評価	環境交流センターでは、豊中市内の阪急沿線の駅周辺で、地域の方へのインタビューやまち歩きを通して地域資源を知り、持続可能な地域づくりのヒントを得る講座を実施しています。					◎	
【まちづくり】の総合評価							
<p><総合評価の補足説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・②花いっぱい運動実施場所数について、花いっぱい運動に参加する団体数は横ばいであるものの、参加団体の実施場所が微増しました。 ・③構成団体の行動提案の実施状況は、実施率が 15% 近く減少しました。「第 3 次豊中アジェンダ 21 改定版」により、行動提案に変更があった影響と考えられます。「まちづくり」のうち、テーマ「地域でのまちづくり」は 70% を超える実施率でしたが、テーマ「事業所からのまちづくり」は 40% に満たない実施率でした。 ・引き続き、地域の特徴に応じたまちづくりにつながるような行動や、地域での活動の広がりなどが求められます。 							C

【環境学習・環境教育】みんなが環境についてともに学び、行動に取り組むまち

項目	指標名	めざす方向	2021	2022	2023	増減等
①統計や行政の行動の指標	出前環境学習の実施回数	増加	52回	61回	86回	25回
	緑化リーダー養成講座受講者数	増加	25人	33人	41人	8人
②市民・事業者の行動の指標	NPO アジェンダ（事業部会）の行事参加者数	増加	60人	73人	28人	△45人
③構成団体チェックシート	「環境学習・環境教育」の行動提案の平均実施率	増加	49.12%	58.33%	50.52%	△7.81%
④市民参加の質的な評価	とよなか市民環境会議ホームページに掲載している構成団体の環境活動を通して、構成団体でも環境学習・環境教育を実施していることがわかりました。					○
【環境学習・環境教育】の総合評価						
<p><総合評価の補足説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・①出前環境学習の実施回数は、昨年度までの評価では豊中市ホームページに記載の出前講座への依頼件数のみを記載していましたが、今回の評価では小学校やこども園等への出前授業は含んだ形での件数にあらためています。なお、2023年度はごみの分別方法の変更に伴う地域への説明会が増加したことにより、件数が増加しました。 ・NPO アジェンダ（事業部会）の行事参加者数は、2021・2022年度はコロナ禍でオンラインを主とした講座を実施し、豊中市以外からも多数の参加がありました。2023年度は同様に講座を実施したものの、対面を主として豊中市内や周辺地域からの参加が中心となったため、人数としては大きく減少することとなりました。 ・③構成団体の行動提案の実施状況は、実施率が8%近く減少しましたが、2021年度の実施率と比べると横ばい程度です。行動提案「豊中アジェンダ 21 を積極的に推進するための人づくりを進めよう」の実施率が10%程度減少したことが影響しています。 ・行政ではマチカネポイントを活用することや、NPO アジェンダでは環境学習リストを再整備するなど、今後は市民がより環境学習を受けやすくする方策の拡充が求められます。 						
C						

【地球環境】地球温暖化を今よりも進めないため、自分にできることから取り組むまち

項目	指標名	めざす方向	2021	2022	2023	増減等
①統計や行政の行動の指標	1人あたり温室効果ガス排出量	減少	3.15 t-CO ₂	2.86 t-CO ₂	—	△0.29 t-CO ₂
②市民・事業者の行動の指標	市民向け地球温暖化対策事業によるCO ₂ 削減量	増加	12,723 kg-CO ₂	41,721 kg-CO ₂	25,991 kg-CO ₂	△15,730 kg-CO ₂
③構成団体チェックシート	「地球環境」の行動提案の平均実施率	増加	63.74%	75.16%	73.44%	△1.72%
④市民参加の質的な評価	とよなか市民環境展 2023 の企画展示ではゼロカーボンシティをテーマとし、来場した市民に温暖化対策やゼロカーボンを広くPRしました。					◎
【地球環境】の総合評価						
<p><総合評価の補足説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・①1人あたり温室効果ガス排出量の2023年度の数値が判明するのは2024年7月以降となるため、2022年度の数値を直近の値として評価しています。めざす方向が「減少」であるため、増減等の数値がマイナスになっているのは良いこととして評価します。 ・②市民向け地球温暖化対策事業によるCO₂削減量は、「第3次豊中アジェンダ21改定版」から新たに導入した指標です。でんきの「見える化」モニターなど、事業で実施した市民の取組みにおいて推計されたCO₂削減効果について評価しています。 ・③構成団体の行動提案の実施状況は、実施率がおおむね横ばいとなっています。行動提案「ゼロカーボンシティを実現するため、気候変動の現状を理解し、自分にできることを考え行動しよう」は、80%を超える実施率となっています。 ・今後は、2022年に豊中市が改定した「第2次豊中市地球温暖化防止地域計画（改定）～とよなか・ゼロカーボンプラン～」の推進を通して、市民・事業者へゼロカーボンに向けた取組みを広く進めるとともに、行動を促していくことが求められます。 						
B						

【エネルギー】くらしの中で省エネルギーを意識し、みんなで自然エネルギーの導入に取り組めるまち

項目	指標名	めざす方向	2021	2022	2023	増減等
①統計や行政の行動の指標	1人あたりのエネルギー消費量	減少	35.1GJ	34.6GJ	—	△1.0GJ
	太陽光発電補助による導入量	増加	364kw	503kw	430kw	△73kw
②市民・事業者の行動の指標	市民向け地球温暖化対策事業の参加者数(ユニーク数)	増加	197人	442人	363人	△79人
	地球温暖化対策のためのマチカネポイントの配布ポイント数	増加	ポイント開始前	263,200ポイント	129,705,200ポイント	129,442,000ポイント
③構成団体チェックシート	「エネルギー」の行動提案の平均実施率	増加	76.02%	82.03%	71.88%	△10.15%
④市民参加の質的な評価	電気代・ガス代などが高騰していることにより、省エネ・節電の一環として省エネ機器の買い替えへの意識が広がりつつあります。					○
【エネルギー】の総合評価						
<p><総合評価の補足説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ①1人あたりのエネルギー消費量の2023年度の数値が判明するのは2024年7月以降となるため、2022年度の数値を直近の値として評価しています。めざす方向が「減少」であるため、増減等の数値がマイナスになっているのは良いこととして評価します。 ②市民向け地球温暖化対策事業の参加者数(ユニーク数)、地球温暖化対策のためのマチカネポイントの配布ポイント数は、「第3次豊中アジェンダ21改定版」から新たに導入した指標です。マチカネポイントの配布ポイント数について、2023年度は国の交付金を原資としたエアコン・冷蔵庫・テレビの買い替えにマチカネポイントを付与する「省エネ家電普及促進事業」を実施したため、ポイント数が急増しました。 ③構成団体の行動提案の実施状況は、実施率が10%以上減少しました。「第3次豊中アジェンダ21改定版」により、行動提案に変更があった影響と考えられます。行動提案「再生可能エネルギーの導入を進めるため、太陽光発電などの設置や、電力会社の選択をしよう」の実施率が40%に満たない状況で、全体の実施率を押し下げています。 引き続きマチカネポイントなどを活用し、今後も家庭や事業所でのカーボンゼロに向けたエネルギーの取組みの促進が求められます。 						
B						

【交通】歩きやすく、自転車で走りやすく、公共交通の便利なまち

項目	指標名	めざす方向	2021	2022	2023	増減等
①統計や行政の行動の指標	自動車保有台数（総数）	減少	152,074 台	152,396 台	150,954 台	△1,442 台
	カーシェアリングの台数	増加	288 台	298 台	346 台	48 台
	阪急バスの利用者数	増加	87,682 人	93,092 人	—	5,410 人
	自転車通行空間整備状況	増加	12.15km	16.79km	20.96km	4.17km
	シェアサイクルの利用回数	増加	87,062 回	137,982 回	219,403 回	81,421 回
②市民・事業者の行動の指標						
③構成団体チェックシート	「交通」の行動提案の平均実施率	増加	51.13%	57.28%	60.35%	3.07%
④市民参加の質的な評価	2023 年 10 月の国の調査では再配達率が 11.1%で、前年同月の 11.8%から微減となりました。物流の「2024 年問題」に対応するため、政府は、2024 年度に再配達率 6%をめざすとしています。					○
【交通】の総合評価						
<p><総合評価の補足説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・①自動車保有台数（総数）は、めざす方向が「減少」であるため、増減等の数値がマイナスになっているのは良いこととして評価します。 ・①カーシェアリングの台数は、全体では増加していますが、一部企業のコインパーキングでは 2022 年に減少に転じ、引き続き減少傾向にあります。 ・①阪急バスの利用者数、シェアサイクルの利用回数は、「第 3 次豊中アジェンダ 21 改定版」から新たに導入した指標です。「第 3 次豊中アジェンダ 21」では阪急電車の利用者数を指標としていましたが、より地域での公共交通利用がわかる指標として、阪急バスの利用者数に変更しました。なお、阪急バスの利用者数の 2023 年度の数値が判明するのは 2024 年 7 月以降となるため、2022 年度の数値を直近の値として評価しています。 ・③構成団体の行動提案の実施状況は、実施率が微増でした。「第 3 次豊中アジェンダ 21 改定版」により、行動提案が大きく変わりましたが、実施率にはあまり影響しませんでした。行動提案「自転車利用のルールを学ぶ、マナーを守ろう」は 90%近い実施率となっています。 ・交通はライフスタイルから環境への負荷に至るまで、市民・事業者の行動に大きく影響するものの、「第 3 次豊中アジェンダ 21 改定版」の策定において、市民・事業者の行動の指標が見いだせなかったため、今後は市民や事業者が実践できる身近な行動の指標が求められます。 						

B

※現時点では、市民・事業者の行動の指標が設定されていません。

【省資源・循環型社会】ごみになるものを減らし、資源として循環することができるまち

項目	指標名	めざす方向	2021	2022	2023	増減等
①統計や行政の行動の指標	1人1日あたりのごみ量	減少	808g	792g	—	△16g
	1人1日あたりの食品ロス量	減少	111.5g	110.1g	—	△1.4g
	環境関連施設の見学者数	増加	11,211人	13,699人	14,741人	1,042人
②市民・事業者の行動の指標	豊中エコショップ認定店舗数	増加	174店	186店	198店	12店
	子ども服リユースの実施回数	増加	4回	5回	15回	10回
③構成団体チェックシート	「省資源・循環型社会」の行動提案の平均実施率	増加	66.01%	71.32%	66.41%	△4.91%
④市民参加の質的な評価	民間のリユースショップやフリマサイト、行政や団体による子ども服リユースやフードドライブなど、市民のリユースの機会が増えており、リユース品を受け入れる市民が広がってきています。					○
【省資源・循環型社会】の総合評価						
<p><総合評価の補足説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・①1人1日あたりの食品ロス量は、「第3次豊中アジェンダ21改定版」から新たに導入した指標です。1人1日あたりのごみ量、1人1日あたりの食品ロス量の2023年度の数値が判明するのは2024年7月以降となるため、2022年度の数値を直近の値として評価しています。また、これらの指標はめざす方向が「減少」であるため、増減等の数値がマイナスになっているのは良いこととして評価します。 ・①環境関連施設の見学者数（豊中市伊丹市クリーンランド、原田下水処理場、緑と食品のリサイクルプラザの合計人数）は増加傾向にあります。ただし、コロナ禍以前（2019年度以前）は16,000～17,000人台であり、2023年度は2施設でコロナ禍以前と同程度に回復したものの、1施設で回復にまでは及んでいません。 ・②子ども服リユースの実施回数は、「第3次豊中アジェンダ21改定版」から新たに導入した指標です。家庭で使わなくなった子ども服を回収し、市民向け配布したイベント等の機会をカウントします。 ・③構成団体の行動提案の実施状況は、実施率が5%近く減少しましたが、2021年度の実施率と比べると横ばい程度です。「省資源・循環型社会」のうち、テーマ「家庭等での推進」は80%近い実施率でしたが、テーマ「地域での推進」は50%に満たない実施率でした。 ・省資源・循環型社会の取組みは、成果が評価指標などの数値に現れやすいことから、引き続き市民・事業者・行政が協働し、ごみの減量や3Rの推進に取り組むことが求められます。 						
B						

【食・農】地産地消で広がる生き生き農業と、「とよっぴー」を紡いで食育が実感できるまち

項目	指標名	めざす方向	2021	2022	2023	増減等
①統計や行政の行動の指標	「とよっぴー」製造量	減少	92.9t	94.8t	85.0t	△9.8t
	地域産野菜等の学校等給食提供回数	増加	109回	114回	144回	30回
	市民農園申込者数	増加	1,319人	1,366人	1,298人	△68人
②市民・事業者の行動の指標	「とよっぴー」の購入者数	増加	964人	1,117人	1,102人	△15人
	地産地消野菜の購入者数	増加	1,195人	1,336人	1,522人	186人
	食育学習の回数、参加者数	増加	68回 1,476人	81回 1,394人	114回 2,125人	33回 731人
③構成団体チェックシート	「食・農」の行動提案の平均実施率	増加	53.51%	65.69%	46.56%	△19.13%
④市民参加の質的な評価	環境交流センターでは、ジャガイモの植え付けから収穫体験と、収穫したジャガイモを使ってコロッケを製造する事業者でコロッケ作り体験を行う親子対象の連続講座を企画し、市民と事業者の連携・協働により講座を実施しました。					◎
【食・農】の総合評価						
<p><総合評価の補足説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ①「とよっぴー」の製造量は、めざす方向が「減少」であるため、増減等の数値がマイナスになっているのは良いこととして評価します。 ②「とよっぴー」の購入者数、地産地消野菜の購入者数、食育学習の回数は、コロナ禍以前の2018年度はそれぞれ順に1,320人、1,807人、136回であったことから、コロナ禍以前に向けて着実に回復してきています。 ③構成団体の行動提案の実施状況は、実施率が20%近く減少しました。「第3次豊中アジェンダ21改定版」により、行動提案に変更があった影響と考えられます。行動提案「健全な食生活を実践するため、食育活動を推進しよう」が70%を超える実施率であるのに対して、行動提案「自宅の庭やベランダでの家庭菜園や市民農園を利用しよう」は40%に満たない実施率となっています。 家庭菜園や市民農園の利用などは市民それぞれの状況により実施できるか異なるため、引き続き市民が食や農にふれる多様な機会を提供していくことが求められます。 						

C

【自然との共生】多様な生き物がすみ、みどり豊かで、水辺に親しむことができるまち

項目	指標名	めざす方向	2021	2022	2023	増減等
①統計や行政の行動の指標	緑被率	増加	12.9%	調査年ではないため未実施	調査年ではないため未実施	=
	特定外来生物措置件数	減少	16 件	39 件	27 件	△12 件
	ツバメのねぐらの飛来数	増加	9,500 羽	4,500 羽	6,000 羽	1,500 羽
	ため池の箇所数	増加	36 か所	36 か所	36 か所	0 か所
②市民・事業者の行動の指標	NPO アジェンダ（自然部会）行事参加者数	増加	595 人	623 人	727 人	104 人
	自主管理登録団体数	増加	169 団体	174 団体	169 団体	△5 団体
③構成団体チェックシート	「自然との共生」の行動提案の平均実施率	増加	49.93%	57.32%	52.50%	△4.82%
④市民参加の質的な評価	豊中市の教育研究所（当時）で製作され、教育センターで保管されていた豊中で見つかったキツネとタヌキのはく製について、環境部へと所有が移管され、環境交流センターで市民向けに常設展示を開始しました。					◎
【自然との共生】の総合評価						
<p><総合評価の補足説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・①特定外来生物措置件数は「件数が少ない＝出現数が少ない」を基本とし、めざす方向が「減少」であるため、増減等の数値がマイナスになっているのは良いこととして評価します。 ・①ツバメのねぐらの飛来数は、「第3次豊中アジェンダ21改定版」から新たに導入した指標です。ここ数年はツバメのねぐらである赤坂下池の水抜きやヨシ刈りなどの管理が課題となっていました。2022年度にとよなか市民環境会議アジェンダ21自然部会がヨシ刈りに初めて参加し、豊中市と連携して自然保全につながる作業を行ったことで飛来数に回復の傾向が見られました。ただし、飛来数の多かった2018～2019年度頃の15,000羽には及んでいません。 ・②NPOアジェンダ（自然部会）行事参加者数は、コロナ禍以前の2018年度は717人であり、2023年度はコロナ禍以前と同程度まで回復したと言えます。 ・③構成団体の行動提案の実施状況は、実施率が5%近く減少しましたが、2021年度の実施率と比べると微増になります。「第3次豊中アジェンダ21改定版」により、行動提案に変更があった影響と考えられます。行動提案「公園、街路、学校などの樹木の役割を知り、大切にしよう」は70%を超える実施率となっています。 ・行政・市民ともに自然の保全活動は多数行っているものの、2021年度の緑被率は減少傾向であったことから、引き続きみどり率・緑被率の向上に向けた緑化や保全のあり方について検討していくことが求められます。 						
B						

【歴史・文化】身近なところで、育んできた歴史・文化・景観を感じられるまち

項目	指標名	めざす方向	2021	2022	2023	増減等
①統計や行政の行動の指標	景観に関する協定件数	増加	2件	2件	2件	0件
	指定文化財数	増加	87件	90件	90件	0件
	保護樹、保護樹林数	増加	135本 9件	133本 9件	128本 9件	△5本 0件
②市民・事業者の行動の指標						
③構成団体チェックシート	「歴史・文化」の行動提案の平均実施率	増加	50.29%	62.75%	63.54%	0.79%
④市民参加の質的な評価	とよなか百景のかるたが新たに制作・販売されるなど、市民が景観に親しむ機会が作られています。					◎

【歴史・文化】の総合評価

<総合評価の補足説明>

- ・①保護樹について、2017年度の140本をピークに減少傾向にあります。
- ・③構成団体の行動提案の実施状況は、実施率が横ばいでした。「第3次豊中アジェンダ21改定版」においても行動提案の変更がなかったため、影響がなかったものと考えられます。行動提案「地域の文化や歴史の中で培われてきた、良好な景観を大切にしよう」は70%を超える実施率となっています。
- ・「第3次豊中アジェンダ21改定版」の策定においては、市民・事業者の行動の指標が見いだせなかったため、今後は、市民や事業者が実践できる身近な行動の指標が求められます。

C

※現時点では、市民・事業者の行動の指標が設定されていません。

【音・水・大気】騒音や有害な化学物質のない、きれいな水や空気があるまち

項目	指標名	めざす方向	2021	2022	2023	増減等
①統計や行政の行動の指標	環境基準達成状況(大気・水質・道路騒音・航空機騒音)	増加	88.0%	88.0%	—	0.0%
			96.8%	96.4%		△0.4%
			95.5%	94.7%		△0.8%
0.0%			0.0%	0.0%		
	公害関係苦情件数(大気汚染・水質汚濁・騒音)	減少	99件	99件	104件	5件
	1人1日平均給水量	減少	247ℓ	242ℓ	240ℓ	△2ℓ
②市民・事業者の行動の指標						
③構成団体チェックシート	「音・水・大気」の行動提案の平均実施率	増加	69.88%	77.45%	70.31%	△7.14%
④市民参加の質的な評価	音・水・大気については、各家庭での実践により進められている部分が大きくなっています。引き続き、行動提案を実現するための取組みを設定することなどが課題です。					○
【音・水・大気】の総合評価						
<p><総合評価の補足説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ①環境基準達成状況は、2022年度までは5項目を評価していましたが、ダイオキシンは近年100%を継続していたことから、2023年度からはダイオキシンを除く4項目を評価指標としました。なお、環境基準達成状況の2023年度の数値が判明するのは2024年7月以降となるため、2022年度の数値を直近の値として評価しています。 ①公害関係苦情件数について、過去3年間で大気汚染は16→12→19件と変動していますが、騒音は82→87→85件と高止まりしています。また、水質汚濁は2021年度の1件しかありませんでした。 ①1人1日平均給水量は、めざす方向が「減少」であるため、増減等の数値がマイナスになっているのは良いこととして評価します。 ③構成団体の行動提案の実施状況は、実施率が7%程度減少しました。「第3次豊中アジェンダ21改定版」により、行動提案に変更があった影響と考えられます。新しい行動提案「海の環境や私たちの体に及ぼす影響を減らすため、海や川にマイクロプラスチックが流れないようにしよう」は、実施率が約76%となっています。 「第3次豊中アジェンダ21改定版」の策定においては、市民・事業者の行動の指標が見いだせなかったため、今後は、市民や事業者が実践できる身近な行動の指標が求められます。 						

C

※現時点では、市民・事業者の行動の指標が設定されていません。